シックハウスの地域格差～患者の立場から～

新田　美千代

環境アレルゲン調査研究会
〒924-0023 石川県白山市成町1271

最近ではシックハウス症候群や化学物質過敏症（略：CS）が広く認知され，研究も多く進められていますが，私がCSと診断される10年ほど前は情報がほとんどありませんでした。特に私が住む地域では医師や保健所，行政機関に相談しても「それ何？」と怪訝な顔をされ，症状の辛さと自宅の改築と大きな問題を2つ抱え，少ない情報を頼りにあちこちへ問い合わせを繰り返す，暗中模索の日々でした。その頃は医療従事者より建築関係者の方がCSの存在を知っているという印象でしたが，アドバイスされる改善策は「ホルムアルデヒドを避けて，自然素材で家を直せば安心」という内容ばかりでした。しかし，室内の化学物質はホルムアルデヒドだけではなく，また，私や家族は「無垢材＋自然塗装材＋珪藻土の壁材」が使用された家に入ると，ひどい頭痛が起こしていました。そのため，自然素材だから安全・安心とは到底思えませんでした。また「シックハウスの対策商品」を薦められることもしばしばありましたが，それらにも反応してしまう状況でした。患者の立場から見れば，改築に使う建材類は命に直接関わる品物に思えました。それなのに商品販売に都合のよい研究データの一部だけを取り上げたり，すぐに症状が回復するかのような言葉が並ぶ宣伝を見聞きすると，悪意がないとはいえ「医療者でもないのに，治るとか改善すると言ってよいのだろうか？」と疑問を感じ，そして，もっと慎重に商品を扱ってほしいと思っていました。

改築方法がなかなか見えてこない中，6年ほど前に室内環境学会に足を運ぶ機会に恵まれました。シックハウス症候群に関する新しい研究データに触れることは，とても新鮮で楽しく感じられ，参加なさっている方々がCSに対して理解をお持ちだと知り，とても嬉しく思いました。それまでの生活の中で知り得る情報といえば，時間がかなり経ったものや商品販売を伴う納得できないものばかりだったので，室内環境学会でようやく知りたかった情報に巡り合えたような気がしました。

学会で勉強した情報は大いに役立ち，お蔭様で2年前に自宅の改築が無事に終わりました。その様子は昨年11月の総会で，ポスター発表させていただきました。改築が上手く行った主な要因として，症状の治まりを待ったこと，反応する建材を除去したこと，既存のものを再利用して新しい建材の使用を極力少なくしたことだと思っています。また毎年の研究発表を参考にさせていただきながら，自分の生活環境中の悪化要因を1つ1つ見直していきました。有難いことに今では仕事に就けるほど体力が回復し，元の生活に戻ることができました。学会の懇親会などでは，専門知識のない私の質問にもとても丁寧に答えて下さる方が多く，大変感謝しております。この場をお借りして，改めてお礼を申し上げます。

また，私が所属する患者会が主催し，柳沢幸雄先生をお招きした2004年の金沢講演会では，北陸3県から市民と医療・建築・行政各々の関係者が160名ほど集まりました。それまでの北陸地方のシックハウス講演会は，建築関係者が主体となったものが多く，講演会終了後に改築相談会を設けている団体もありました。相談した患者の中には，更に症状が悪化するケースも見られて困っていましたが，金沢講演会後はそれらの団体は解散し，親身に相談に乗っていただける医療機関もできました。シックハウスの情報にも地域格差があり，長年悩んでいた私たちにはとても有難い出来事でした。

患者としてこれからの室内環境学会に期待したいこととして，現代人の生活空間にはたくさんの物が溢れ，外気からの影響もあると思います。一軒として同じ条件のシックハウス環境はないと思いますので，患者の住空間の研究データがあればこれから新築する方，発症した方の住居対策に更に役立つのではないかと思います。また，学会に入るということは一般者には敷居が高く躊躇する面がありますので，素晴らしい研究内容が困っている患者さんたちに届くような，情報の地域格差が少なくなるような方法を考えていただきたいと希望いたします。